

県内の多くの企業で行われた仕事始め式。経営トップが訓示した＝岐阜市神田町、十六フィナンシャルグループ本社ビル



馬のごとく飛躍へ

県内企業トップ 年頭訓示

県内企業は5日、新年の仕事始めを迎えた。経営トップは年頭訓示で、さらなる成長に向けて、一段の飛躍の年にしようと意気込みを述べた。主な経営者の訓示をまとめた。

変化を捉え柔軟に対応

林敬治頭取

大垣共立銀行

昨年は金利環境の変化や物価上昇の影響で大きく揺れ動いた一年だった。今年の経済環境の予測は非常に難しい。金融業を取り巻く環境が日々変化し、課題も変わる中、変化をいち早く捉え、ビジネスモデルを柔軟に変えていく対応力、お客様への感謝を胸に未来への一歩を力強く踏み出そう。



確かなステップの年に

池田直樹社長

十六フィナンシャルグループ

銀行創立150周年の節目である2027年度に向け、踏み出した一歩を、飛躍へとつなげる「ステップ」の年となる。グループの経営リソースをフル活用し、金利のある世界での収益基盤を確立させることで、新たな目標の達成に向け、着実に歩みを進めていく。飛躍へのシンボルとなる「16FGオフィス&パーク」も、いよいよその姿を現す。「一歩先を行き、いつも地域の力になる」姿を見据え、ゆるぎない確かな「ステップ」を踏み進めていく。



新たな価値創造に挑戦

小川章理事長

大垣西濃信用金庫

昨年はさまざまな創立100周年記念行事に感謝の気持ちを含めて取り組み、次の節目の周年に向け、新たな歩みを刻み始めた。今年は、特に「旬」を見失わないように、地域特有の風土に触れながら人々と出会い、つながりを深めていきたい。



お客さまとの絆を深化

好岡政宏理事長

岐阜信用金庫

業績が順調な大手企業の傍らで、お取引先である中小零細企業では、人手不足や物価高に伴う利益の圧迫等、構造的な課題を抱える先も多い。また、個人先では「金利のある世界」の到来、金融政策等を背景にした資産運用への関心がますます高まっている。お客さまの課題解決こそわれわれが目指すところであり、一人一人が知識や経験を積み上げることが何より大切である。情熱を持って行動し、お客さまの信頼を得て、一層絆を深めていきたい。



新規事業の芽を育てる

浅井利明社長

トーカイ

2026年は中期経営計画2年目、収益性向上とグループシナジー最大化を加速させる。人手枯渇時代に対応し、DXで効率化を進め、現場力とチームの創造力・実行力を高める。既存事業の深化に加え、介護予防や未病改善など新規事業の芽を育てる一年とする。主体性を持ち、変化を恐れず挑戦し、個の力を束ねて成果を生む自律型組織を創る。健康長寿社会に貢献しながら100年企業への道を切り拓き、トーカイグループの未来を創る。



知恵を絞り力強く前進

小池孝幸社長

バローHD

昨年も環境が激変する一年だったが、変化は常に起るもの。コスト増は常態化し、競争が苛烈化するのとは当然の流れだ。企業には、変化対応できるかという命題から、変化に左右されない本質としての武器をいくつ積み上げられるかが求められる。昨年であったが、今年はさらにその進化を加速させる。売り上げでは足し算を掛け算に、経費では引き算を割り算に、知恵を絞り、力強くグループで前進していく。



組織の枠組み超え変革

小林領司社長

電算システムHD

生成AI（人工知能）が登場して3年。瞬く間にできることが増加し、あらゆる場面で人の仕事の代わりができるようになってきた。お客さまにAIを提案する私たちの仕事も、多くはAIに置き換わっていくだろう。自らの仕事を革新し、お客さまの課題やニーズを的確に捉え、AIを活用することで、今までよりも効率的に新たな価値を提供していくことが私たちの使命。従来の組織の枠組みを超え、社内外で共創による変革を進めていく。



地元と共に栄える 実践

加知康之理事長

東濃信用金庫

2026年の新春を迎え、謹んでよろこびを申し上げます。昨年を振り返ると、企業業績の堅調さや賃上げの広がりによって、緩やかな回復が見られた。その一方で、地域においては人手不足や価格転嫁、事業承継などの課題が残っている。このような環境の中にあるが、東濃信用金庫は、新たな年も経営理念に掲げている「地元と共にあり、共に栄える」を実践しながら、地域の皆さんと共に、地域の発展を目指していきたいと考えている。

